

編集後記

今年の梅雨明けは全国的に平年より1~2週間遅く、子どもたちは夏休みに入ってからようやく梅雨が明けたという状況でした。しかしその後は猛暑となり、連日「熱中症に注意を」という注意が耳に目に入ってきました。9月に入っても残暑は厳しく、さらに二百二十日にほぼ一致する頃に風の強い台風15号が神奈川県、千葉県および関東首都圏を直撃。そして暑さがまた続いています。そのような中、インフルエンザの発生増加や、始まったばかりの学校での学級閉鎖の情報が相次いで届いています。来夏2020年は、気候も、感染症もおとなしくあってほしいと願うばかりです。

さて、本号の特集は「小児の糖尿病—最近の知見」として、1型糖尿病・2型糖尿病の病因と病態生理、小児のメタボリックシンドローム、小児糖尿病ガイドライン、1型・2型それぞれの治療、近未来の治療、患者支援、小児から成人への移行期の医療など、小児糖尿病の基礎、臨床、管理、支援など幅広い最新情報についてご寄稿いただきました。直接小児糖尿病の診療にあたらない先生方でも、糖尿病に限らず現在の慢性小児疾患に関する課題について、大変参考になる特集になったと思っています。

綜説として、小児に絞った日本紅斑熱の特徴、そして発生数としては世界でも少ない国となったわが国の小児結核ですが、海外とくにアジアからの訪

日・在留が急増している中で小児診療にあたって再び注意が必要となってきたことなどについて、解説をいただきました。また診断困難な希少例について、母親がインターネット情報から大きな疑いをもって診断に結びついた症例の報告をいただきました。「おそらくはそれまで10数名の小児科が診ていて気がつかなかったことになる」という衝撃的な一文がありました。インターネット情報やAIにかなわない時代が迫ってはいますが、著者は「診断後の小児科医の対応が重要になると考える」と結んでいます。特集の糖尿病にも同様のことが言えると思いますが、診断をするのはAIであっても、その病気を理解して患者さんに寄り添っていくことができる小児科医がますます求められているのではないだろうか、そんな思いになった症例報告でした。

その他には、アトピー性皮膚炎女児に生じた黄色ブドウ球菌による腎膿瘍(目で見える小児科)、腸骨骨髓炎の症例報告、小児科専門医制度の解説、日本医科大学小児科学教室による神経疾患に関する外国論文の紹介などが掲載されております。本号がお手元に届く頃は、過ごしやすいい日々になっていると思います。秋の夜長、どうぞ本誌をお楽しみください。

(岡部 信彦)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第60巻 第11号 10月号

2019年10月1日発行（毎月1回1日発行）

定価（本体2,700円＋税）

年間購読料金

定価（本体42,100円＋税）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。